

本の万華鏡

『地球生命圏 ガイアの科学』

シム・ラブロック著、スウィム・プリム・プラマッタ訳 —— 工作舎 一九八四年

この本は一九八九年に私が映画『地球交響曲』を撮り始めるに当たって大きな勇気を与えてくれた本です。作者はイギリスの生物物理学者シム・ラブロック博士、日本では一九八四年に初版が出版されました。

二〇世紀後半に世界中で活発化し始めた環境保護運動の理論的、精神的支柱となつた本でもありません。この本の中でラブロック博士は、母なる星地球ガイアはそれ自体がひとつの大きな生命体であり、私達人類はもちろんのこと、動物も虫もバクテリアも、樹や花や草も、岩や水や風までもが互いに繋がり、ひとつの大きな生命システムとして三五億年の歳月を生き続けている」といふ「ガイア理論」を発表しました。ちなみに「ガイア」とはギリシャ神話の大地の女神の名前です。

なぜ、「地球は大きな生命体である」と言えるのか」といふ理論の内容については是非この本を読んで下さい。私たちが人にもわかりやすい科学的説明がされています。

さて、私がこの本に大きな勇気を与えられたのは次のような理由からです。

私たち日本人の心の奥底には、自分の生命は自分だけの所有物ではなく、自分以外の全ての存在、樹にも岩にも水にも生命や魂が宿り、その目には見えない大きな生命の繋がりの中で自分も生かされている」といふ生命観があります。「八百万の神」といふ考え方は、この「生かされている」といふ体感に意識していたか否かは別として、幼い頃から私の中に漠然とあったように思います。それは私個人が独自に体得したものでなく、日本人の日々の生活の中に、数千年の歳月を経て浸み込んでいたものだったのです。しかし、物質的な豊かさの追求に狂奔した戦後の歴史の中では、「生かされている」といふ体感に口に出すのも恥ずかしいという雰囲気がありました。そしてこの物質的豊かさのみを追い求める生き方の歪みが次々と深刻な環境問題を生み出しました。環境問題だけではありません。人間の心の荒廃を生み出しています。物質的豊かさを求めることそのものは悪いことではない。しかし、なにか最も大切なものが欠けている。そんなことに誰もが気が付き始めた二〇世紀後半、ラブロック博士の「ガイア理論」が発表されたのです。

この本は科学の側から、私達の生命は母なる星地球の大きな生命の一部分として、他の全ての存在と繋がって今ここに生かされている」といふ事実を解き明かした本です。物質的豊かさの追求を支えて来た科学の側からこの考え方が生まれ、「欧米人より日本人の方がずっと早く素直にガイア理論を理解してくれ」といいます。それは多分日本文化の底流に「生かされている」といふ生命観があるからです。地球温暖化に取り組む第一歩は、自分の中に眠るその記憶を取り戻すことではないでしょうか。

推薦者 龍村仁 (たつむらじん)

ドキュメンタリー監督、元NHKディレクター、有限会社龍村仁事務所代表。一九四〇年宝塚市生まれ。六三年京都大学文学部美学科卒業後、NHKに入局。報道局を経て教育局でフィルムドキュメンタリーの演出に従事。七四年ATG映画「キヤロル」を制作・監督したのをきっかけにNHKを退社。その後はフリーの演出家として、地球交響曲・シリーズなどのドキュメンタリー、ドラマ、CMの制作に従事。主な著書は、「いのちの豊生命交響曲」(講談社)、「地球のささやき」(創元社)など。



from editor's room

- 『地球のささやき』龍村仁 創元社(1995年)
- 『地球持続の技術』小宮山宏 岩波書店(1999年)
- 『地域発・ゼロエミッション - 廃棄物ゼロの循環型まちづくり』吉村元男 学芸出版社(2000年)
- 『地球環境のためにわたしたちができること - 学校施設での省エネルギー対策について』文部科学省(2002年)
- 『よくわかる地球温暖化問題 改訂版』気候ネットワーク編 中央法規出版(2002年)
- 『あなたが世界を変える日 - 12歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ』セヴァン・カリス・スズキ 学陽書房(2003年)
- 『わが家をエコ住宅に - 環境に配慮した住宅改修と暮らし』濱恵介 学芸出版社(2002年)
- 『宇宙樹 Cosmic tree』竹村真一 慶應義塾大学出版会(2004年)
- 『NEXT21 - その設計スピリッツと居住実験10年の全貌』「NEXT21」編集委員会 エクスナレッジ(2005年)
- 『食料の海外依存と環境負荷と循環農業』鈴木宣弘 筑波書房(2005年)
- 『地球環境危機からの脱出 - 科学技術が人類を救う』レスター・ブラウン、デヴィッド・ハウエル、黒川清、薬師寺泰蔵、十市勉、植田和弘、藤嶋昭、松井孝典 ウェッジ(2005年)

- 『環境と文明 - 新しい世紀のための知的創造』山折哲雄 NTT出版(2005年)
- 『地域の温暖化対策先進事例・提言集2005』気候ネットワーク編(2005年)
- 『地球環境にやさしくなる本 - 省エネ編』(財)省エネルギーセンター監修、PHP研究所編(2006年)
- 『エコシフト - チャレンジに世界を変える方法』マエキタミヤコ 講談社(2006年)
- 『江戸と現代 - 0と10万キロカロリーの世界』石川英輔 講談社(2006年)
- 『省エネ住宅とスマートライフでストップ地球温暖化』日本建築学会編 日本建築学会(2006年)
- 『豊かさ環境』秋元英一、小塩和人 ミネルヴァ書房(2006年)
- 『図解 地球の真実 - ひと目でわかる地球温暖化の今と未来 - 世界の、とても不都合なこと』別冊宝島 宝島社(2007年)
- 『市民・地域が進める地球温暖化防止 - think of the future, act now!』和田武、田浦建朗編著 学芸出版社(2007年)
- 『食べ方で地球が変わる - フードマイルージと食・農・環境』山下惣一、鈴木宣弘、中田哲也編 創森社(2007年)
- 『地域発!ストップ温暖化ハンドブック - 戦略的政策形成のすすめ』水谷洋一、酒井正治、大島堅一編 昭和堂(2007年)